

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：京田辺市

プロジェクト名	地域防災力向上プロジェクト ～より災害に強いまちをめざす～		実施期間	平成26年度～平成28年度	テーマ	まちの安心・安全	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>ここ数年、京都府では局地的な豪雨や台風により各地で甚大な被害を受けているところである。また、本市を流れる河川のそのほとんどが天井川を形成しており、その多くが住宅密集地を流れている。そのため、決壊が発生した場合、隣接の住家等に壊滅的な被害を及ぼす恐れがある。行政として河川の増水・氾濫による危険性から市民の生命・生活を守ることとともに、市民との協働による住民避難等のソフト対策を一体的に取り組む必要がある。26年度に策定した、避難所の開設手順や運営ポイント等の基本事項をとりまとめた「避難所運営基本マニュアル」を基に、それぞれの自主防災組織において、地域の特性や実情に応じたマニュアルの策定を進めるとともに、災害発生に備えた救助体制の強化や、ライフラインが断たれた状況下でも安定した救助活動を支える施設の整備、現場活動支援や災害に関する情報の発信等を行う消防指令システムの更新など、ハード面の充実強化も図っていく必要がある。</p> <p>加えて、地域版防災マップの作成や防災士資格取得の奨励、自主防災組織の設置、消防団資機材の充実に取り組むことにより、市民と行政との「共助」を軸とした、災害に強いまちづくりを目指す。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>災害発生時の当事者となる地域住民と行政が一体となった避難所の体制強化、避難所運営マニュアルの作成、詳細な災害情報の相互提供や、災害発生に備えた救助体制の強化により、地域防災力を向上し、災害に強いまちを目指すもの。</p>							
	総事業費（千円）	253,314	本年度事業費（千円）	58,169	交付金額（千円）	15,968		
プロジェクトを構成する事業の平成27年度事業実績(出来高数値等)								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）			
市町村 実施事業	消防団資機材充実事業	交付対象事業	地域防災の要となる消防団の非常備消防力の強化を図るため、新基準作業服と救助用長靴を更新するもの。		地域防災の要となる消防団の非常備消防力の強化を図るため、新基準作業服と救助用長靴を更新した。			
	避難所整備事業	交付対象事業	災害時に避難所で一定の生活が送られるよう防災備蓄品を充実させるもの。		避難所開設当初より必要となる難燃毛布や、開設期間の長期化や避難住民の増加により必要となる備蓄用食料や飲料水、簡易トイレ等、災害時に備え備蓄品を整備した。			
	消防車両整備事業	交付対象事業	機能強化した消防ポンプ車・消防団積載車・小型ポンプを更新し、災害発生に備え体制を強化するもの。		消防ポンプ車・消防団積載車・小型ポンプを更新し、災害発生に備え体制を強化した。			
	高機能消防指令システム更新事業	交付対象事業	119番通報の受付や現場活動支援、災害情報の発信などを行うための高機能消防指令システムを更新するもの。		高機能消防指令システムを更新するため、実施設計を行った。			
	耐震性貯水槽設置事業	関連事業	市内の公園や公共用地に耐震性の防火水槽を設置するもの。		防賀川公園に耐震性貯水槽を設置した。また、新田辺西公園・大住ヶ丘第2公園に設置予定の耐震性貯水槽の測量設計を実施した。			
住民 実施事業	避難所運営個別マニュアル策定事業	交付対象事業	26年度に策定した「避難所運営基本マニュアル」を基に、それぞれの自主防災組織において、地域の特性や実情に応じたマニュアルを策定することで、各地域で災害の内容や規模に応じて臨機応変に避難所を立ち上げられるようにするもの。		田辺東小学校分校の避難行動・避難所運営個別マニュアルを策定した。			
	防災士資格取得奨励事業	交付対象事業	様々な場で防災力向上のための活動が期待される防災士資格の取得を支援することにより、市民の安全安心な暮らしを実現するもの。		地域防災力向上のため、防災士資格取得にむけた取組に対し支援を行った。（9名分）			
	自主防災組織設置・育成事業	交付対象事業	災害時に避難誘導や救命救助、情報収集など、多様な役割を担う自主防災組織の設置・育成支援を行い、補助金を交付するもの。		計24の自主防災組織へ育成支援として助成金を交付した。			

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：京田辺市

協働事業	地域版防災マップ（土砂災害）策定事業	交付対象事業	大雨やゲリラ豪雨により、市域に甚大な土砂災害が発生することに備え、適切なタイミングで住民等が避難できるよう、警戒すべき区域、避難対象、避難場所、ルートや避難方法などを地域毎に明示するもの。	土砂災害に備え地域住民とともに地域住民の目線に立った地域土砂災害避難マップを作成し、地域防災力の向上を図った。（2カ所）	
	地域版防災マップ（水害）策定事業	交付対象事業	木津川左岸地域の地域住民が中心となって避難場所や避難ルートなどを設定し地域版の防災マップを作成することにより、防災意識と地域防災力の高揚を図るもの。	水害が起こる危険性のある地域の住民とともに地域版防災マップ（水害）を作成し、地域防災力の向上を図った。（2カ所）	
	避難所体験訓練事業	関連事業	避難所となる小学校で、地域住民や要配慮者とともに、宿泊体験や運営手順、災害対応策等についての訓練を実施するもの。	災害発生を想定し、避難勧告・避難指示発令時の避難所運営訓練を実施し、また有事の際の自主的かつ積極的に円滑な避難所運営に資するため、避難所（培良中学校）での一泊体験を実施した。	
住民が取り組む事業	きょうたなべし減災プロジェクト	関連事業	市民から寄せられる身近な状況報告や、被害情報を、市民と行政が一体となって共有することができ、また、災害発生時の地域住民の行動判断の一材料となることで、災害による被害を減らし、災害に強いまちづくりの一助となるもの。	住民が観測した情報や被害情報の専用ウェブサイトへの投稿・閲覧により情報の共有を図り、減災への取り組みを強化した。	
成果指標①	成果指標の目標数値	防災士取得件数（H28） 目標 5件		成果指標の実績値（平成29年3月31日時点）	9件
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	目標数値を上回ったため。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
成果指標②	成果指標の目標数値	自主防災組織新規結成件数（H25～H28） 目標 4件		成果指標の実績値（平成29年3月31日時点）	9件
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	目標数値を達成しているため。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
成果指標③	成果指標の目標数値	避難所防災毛布備蓄達成率（H28） 目標 90%		成果指標の実績値（平成29年3月31日時点）	100%
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	目標数値を上回ったため。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域土砂災害避難マップや地域版防災マップの作成、避難所一泊体験と避難所運営個別マニュアルの作成、またきょうたなべ減災プロジェクトを通じて住民が多く参画することにより、災害時の「自助・共助」の意識を高めることができ、さらに新たな自主防災組織の設置のきっかけになった。 ・ 避難所一泊体験事業により実際の避難所生活の不自由さ災害時の住民各自がどのような行動をとるべきか学ぶことができ、有事の際の備えと自助・共助の意識の高揚を図ることができた。 ・ 多様化する災害に備え、消防車両、消防団資機材、耐震性防火水槽の整備により、災害発生に備えた救助体制の強化を図ることができた。 				
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。				

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：京田辺市

本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	・避難所一泊体験事業や避難所運営個別地区マニュアルの作成により災害時の想定される状況を身をもって体感することで、地域住民や各種関係者各自が有事に備えることができ、減災につなげることができた。 ・きょうたなべ減災プロジェクトによりインターネットを介した災害情報の相互提供が可能となり、また災害時の判断材料を提供することができた。
	府と市町村等との連携に資する成果	
	住民の自治意識を高める成果	・地域版防災マップの作成事業により、地域住民が中心となった危険箇所や避難場所等の検討や、地域の要配慮者への声かけなどの地域での決めごとを作るきっかけとなり、それにより自助、共助の意識の高揚を図ることができた。 ・避難所一泊体験事業により実際の避難所生活の不自由さ災害時の住民各自がどのような行動をとるべきか学ぶことができ、有事の際の備えと自助・共助の意識の高揚を図ることができた。 ・避難所運営マニュアル策定事業により、地域住民主体で避難所開設・運営ができるよう、その地区にあった個別マニュアルを作成し、地域住民へ配布・共有することで、自助、共助の意識の高揚を図ることができた。
	リーディング・モデル成果	・避難所一泊体験事業をもとに、個別の避難所運営マニュアルを策定した。 ・ここ数年局地的な豪雨や台風による被害が発生していることから、地域土砂災害避難マップを作成し、防災意識と地域防災力の高揚を図った。
	広域的波及成果	
	行財政改革に資する成果	
	その他の成果	・多様化する災害に備えた消防車両の整備、地域防災の要となる消防団の非常備消防力の強化を図るため、新基準作業服と救助用長靴の更新、災害下での安定した水利の確保のための耐震性防火水槽の整備により、災害発生に備えた救助体制の強化を図ることができた。

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。